

研究主題

「人とのかかわりを大切にし、主体的に活動できる児童の育成」
 ～伝え合い、学び合う国語の力～

川越市立川越小学校

研究のポイント

- 国語の授業を通して、子ども同士の関わりを大切に「伝え合う」コミュニケーション能力の育成を目指す。
- 教師の創意工夫を引き出していくために、プロジェクトチームを編成しリーダーを中心に主体的な実践研究を進める。

1 研究の概要

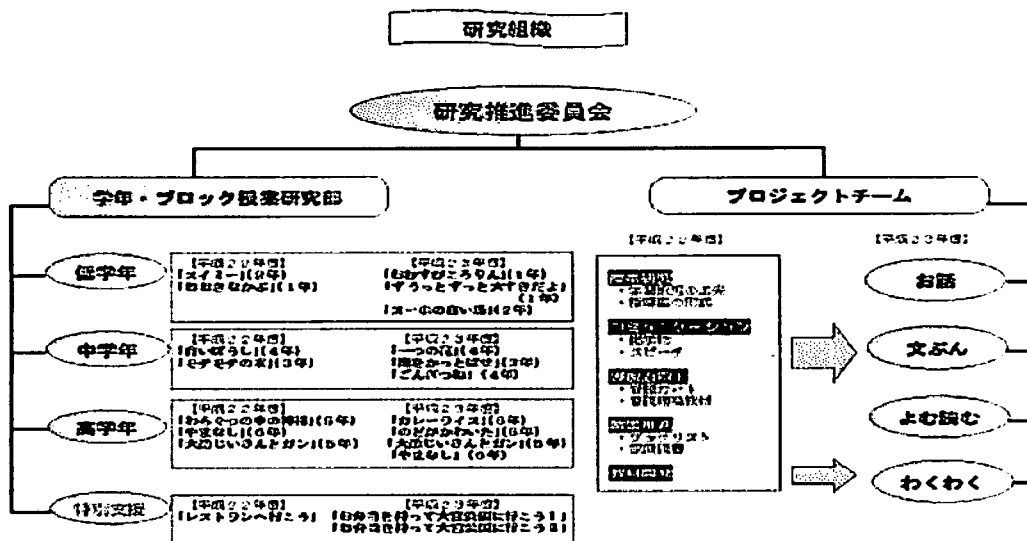
(1) 研究のねらい

委嘱2年目は「読むこと」を中心に授業の基本の流れを研究し、文章を的確に読み進める読解力を身につけさせ、子ども同士の関わりの中で読みが深められるように授業に取り組んだ。

(2) 研究主題設定理由

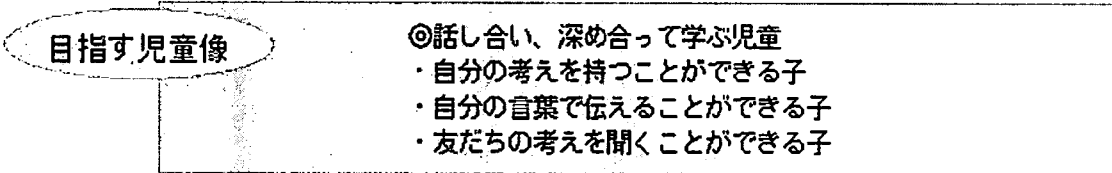
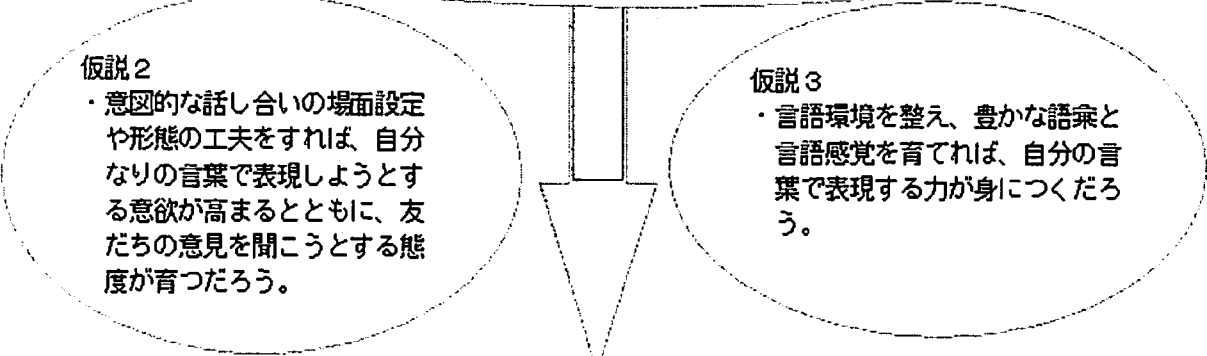
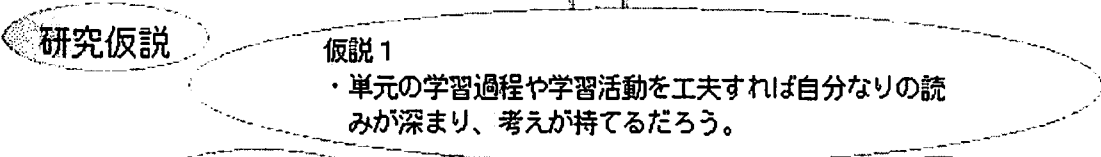
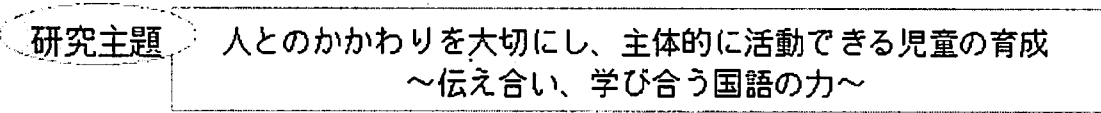
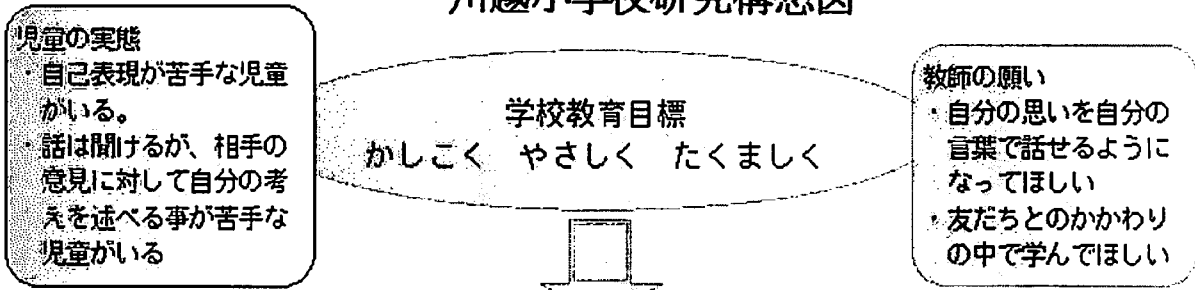
本校の児童の実態としての課題は、日々の授業、学校生活の様子から自己表現が苦手であること。特に自分の考えを言葉で表現することが苦手ということがあげられる。教師の願いとしても「自分の思いを自分の言葉で話せるようになってほしい」「友だちとの関わりの中で学んで欲しい」という声が多くある。そこで、「人とのかかわりを大切にし、主体的に活動できる児童の育成」というテーマにし、コミュニケーション能力の育成を主眼として取り組んでいくこととした。

(3) 研究組織



2 研究の内容

川越小学校研究構想図



低学年

- 想像しながら読み、考えられる子
- 考えたことを書いたり話したりできる子
- 友だちの考えを興味をもって聞ける子

中学年

- 叙述をもとに読み、考えられる子
- 相手に伝わるように筋道をたてて話すことができる子
- 相手の言いたいことを中心に気をつけて聞くことができる子

高学年

- 目的や意図に応じて、自分の考えを持つことができる子
- 事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫して話すことができる子
- 自分の意見と比べるなどして、友だちの考えを聞くことができる子

6,7,8組

- 自分で選ぶことができる子
- 自分で伝えることができる子
- 正しく聞くことができる子

3 実践事例

(1) 研究仮説1について

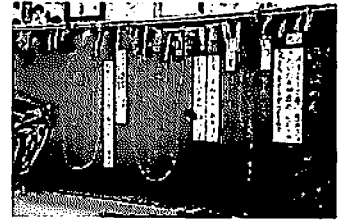
自分なりの読みを深めていくために次のように授業を実践した。

(低学年)

- 動作化・劇化
- ワークシートの工夫
- イメージをふくらませる板書の工夫



動作可



板書の工夫

(中学年)

- 情報の取り出しを意識した学習
- 情報の共有(どこからそう思ったのか)

(高学年)

- 情報の取り出し→解釈→話し合い→まとめ・評価



自分の考えを書く



お店の活動

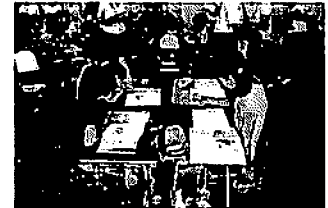
(678組) 具体的な学習活動の場を設定した。

(2) 研究仮説2について

話し合いの場面設定や形態の工夫をして授業を実践した。

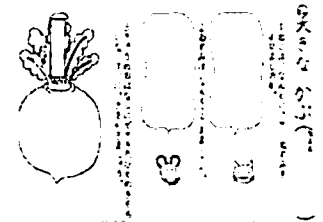
(低学年)

- となり同士の話し合い
- 近くの友だちとの話し合い



(中・高学年)

- 一人読み→グループでの交流→全体での話し合い
- 司会等の役割分担の工夫
- 「何を話し合うのか」を焦点化した課題の設定
- 自分の立場をはっきりさせた話し合い

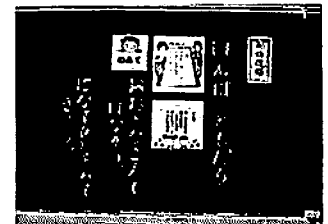


(3) 研究仮説3について

昨年からのプロジェクトチームを発展・統合し、次のようなプロジェクトチームで取り組んだ。

(お話プロジェクト)

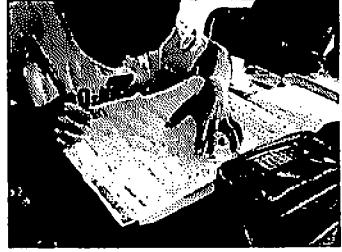
日常生活の中で「話す聞く力」の定着を図るための場を工夫する。特に、対話のスキルアップを図るために「お話道場」という



場を設け、対話活動の技術を身につけさせていく。それにより授業の中で意見交換が活発にできるようにする。また、掲示物を整備し、日常の中での言語環境を整えていく。

(文ぶんプロジェクト)

月に2回、朝の10分間、文字を書くことで、「書くこと」への抵抗をなくし、自分の思いを素直に書けるようにする。1学期は「視写」、2学期は「短文作り」、3学期は「テーマにそった意見文」を書く。「正しく写そう。」「や。を正しく書こう。」「原稿用紙の使い方を確認しながら書こう。」等、めあてを意識させて取り組む。



(よむ読むプロジェクト)

児童の感性や言語感覚を磨き、語彙を豊富にするために読書活動を推進する方策について考える。また、コミュニケーション能力の基礎となる「表現する力」を育てるために、音読や朗読などについて考える。



(わくわくプロジェクト)

障害のある子どもたちが、より豊かに生活するためにコミュニケーション能力が高められる場や方法を考える。



4 今後の成果と課題

(1) 成果

- ・各学年の授業研究を通して、単元計画や発問、板書、ワークシート等の工夫がみられ、児童の「読むこと」に対する意欲が高まった。
- ・「情報の取り出し」を基本とする授業が定着することにより根拠のある読みができるようになった。
- ・低学年では、隣の児童との対話、中高学年ではグループによる話し合い等、授業の中で友だちと関わり意見を交流する場面を意図的に設定できた。学年の発達段階に応じて話し合いの進行表を作成したことは、見通しをもって話し合いができるようになった。
- ・プロジェクトチームを再編し、児童への働きかけを中心とする形態にした。具体的な活動時間を確保することにより、音読や視写の力が少しずつ高まってきた。
- ・家読(うちどく)を提唱し、家庭の協力を求めたり、ブックリストを作成して児童の読書意欲を引き出したりしながら読書活動を推進することができた。

(2) 課題

ワークシートを作成し活用することにより考えをまとめられるようになった。今後はノートに自分の考えを書き込み学習の過程が見えるノート指導を考えていく必要がある。そして、国語の学習で身につけた言語感覚を、日々の生活や他教科・領域の中で生かしていけるような言語活動の支援を工夫していく必要がある。

研究主題

「思いやりの心を持ち、規範意識を高める仙波っ子の育成」
～ 道徳的実践力を高める指導法の工夫～

川越市立仙波小学校

- 児童の心を動かし、多様な考えを引き出す発問の工夫
- 児童相互に学び合い、深め合う話し合いの工夫
- 道徳的実践意欲を高める終末の工夫

1 研究の概要

(1) 研究のねらい

学校教育目標の具現化を図るために、学校の実態を踏まえ道徳の時間を要とした道徳教育の推進が最重要課題と考え、以下の実践研究に取り組む。

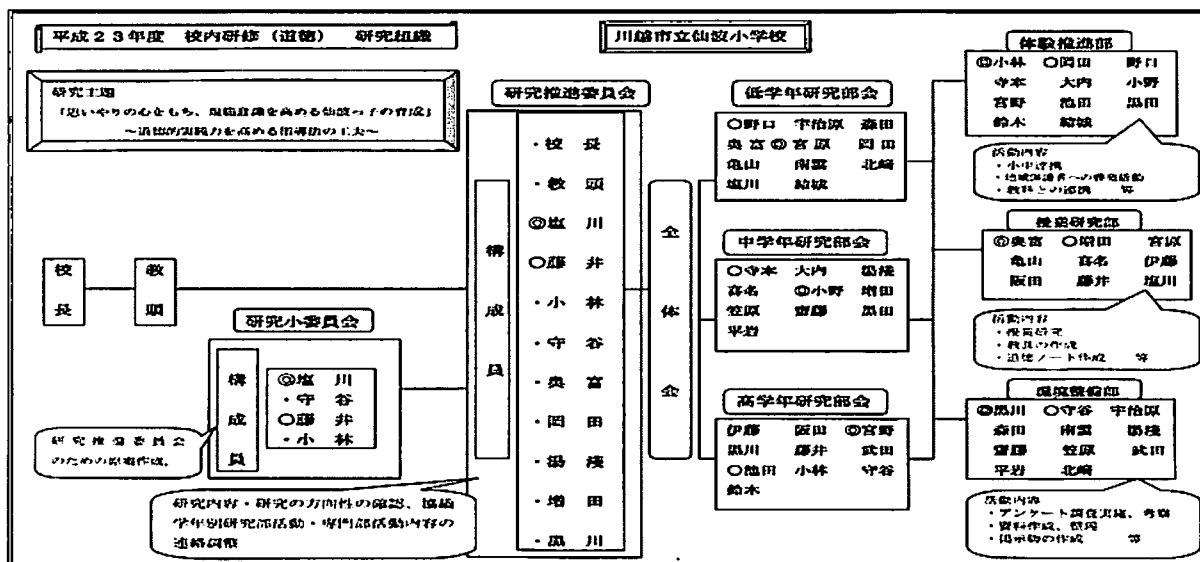
- ① 道徳の時間における工夫改善
- ② 全教育活動における道徳教育の推進
- ③ 小中連携・家庭、地域と連携した道徳教育の推進

(2) 研究主題設定理由

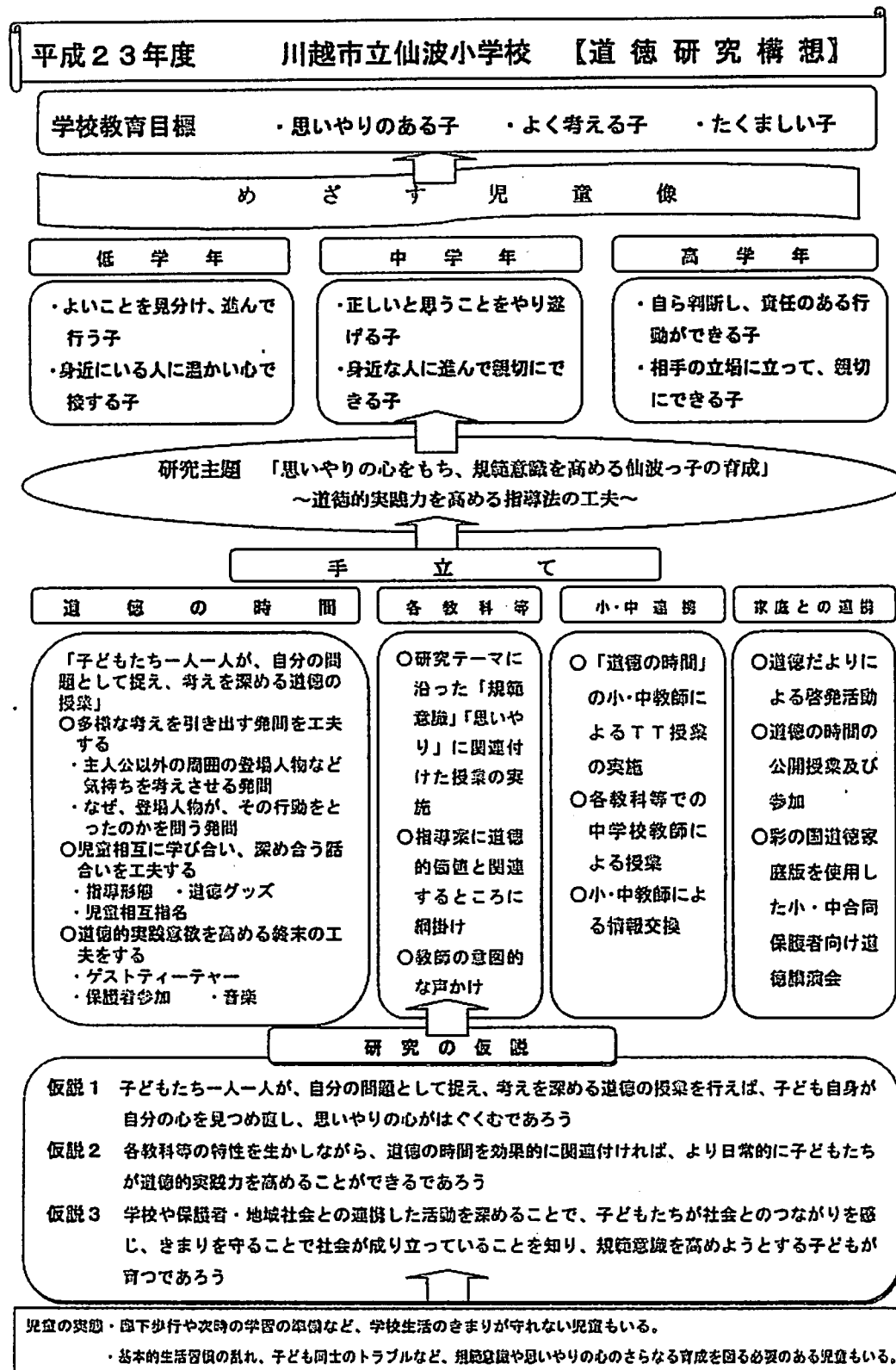
本校の児童は、人なつこく、活動的な明るい子どもが多い。しかし、基本的な生活習慣が身に付いてなかったり、友達などに優しい行動がとれなかったり、規範意識や思いやりの心をもって人に接することに課題を抱えている子どももいる。一昨年度の保護者を対象にした『心の教育・道徳教育』に関する調査からも「思いやりをもってほしい」「決まりの守れる子になってほしい」などの願いが強く見られた。

このような課題や願いから、本校では、自分や他者を大切に、規範意識を高めて前向きに生きていく児童の育成が必要だと考えた。そのためには、道徳の時間を要し、子どもたちの心をゆさぶる指導をすると共に、保護者・地域との連携を深め、道徳的実践力を高めていくことが重要だと考え、本主題を設定した。

(3) 研究組織



2 研究内容



3 実践事例

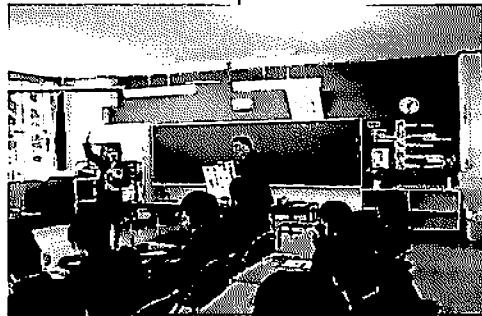
(1) 主題名 日々の心構え 1-(1) 【砂中学校・仙波小学校教諭によるTT授業】

(2) ねらい 望ましい生活態度について深く考え、自ら進んで節度・節制に努める態度を養う。

(3) 資料名 「父の一言」 出典 自分をみつめて(中学校) 彩の国の道徳

(4) 本時の展開

| 段階 | 学習活動と主な発問 | 予想される生徒の反応 | 指導上の留意点 ※評価 | 資料 |
|--------------|--|--|--|--------------------|
| 導入 展開 | <p>■T2の紹介をする</p> <p>1 「親父の小言」を提示し、T2が読む。生徒にどう思うか尋ねる。</p> <p>2. 資料「父の一言」を読んで話し合う。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・いい言葉だと思う ・いちいち細かいな ・礼儀作法は大事だ ・実行まではできない | <ul style="list-style-type: none"> ・ねらいとする価値について生徒の道徳性について意識調査で把握し、授業への意欲づけをする。 ※価値への方向付けができたか。 | <p>親父の小言</p> |
| | <p>(1) 資料範読 T1 主人公(私) T2 父</p> <p>(2) 「テストで点をとれないのは靴そろえができないから」と言われた時の「私」の気持ちについて話し合う</p> <p>(3) 「靴揃えなんかもできないじゃないか」</p> <p>2. 資料「父の一言」を読んで話し合う。</p> <p>(1) 資料範読 T1 主人公(私) T2 父</p> | <p>・「私」の心の動きを読む。</p> <p>・靴をそろえたって数学はできない。</p> <p>・それで成績があがれば苦勞しない。</p> <p>・わかる気もするけれどもめんどうだな。</p> <p><関係ない></p> <p>・私の心の動きを読む。</p> | <p>・文章量が多く、気持ちを追っていく私をT1担任が、父・顧問をT2が読む。</p> <p>・授業全般を通してT2が発問し、T1が切り返しを行う。生徒の意見が偏らないように役割を変えることもある。発問のまとめと板書をT2が行いその間の生徒の様子をT1が観察する。</p> <p>・「靴をそろえることと成績は関係ない」という気持ちに共感させる。</p> <p>・4人班を作って話し合いをさせる。</p> <p>・文章量が多く、気持ちを追っていく私をT1担任が、父・顧問をT2が読む。</p> <p>・授業全般を通してT2が発問し、T1が切り返しを行う。</p> | <p>父の顔の絵・私の顔の絵</p> |



4 研究の成果と課題

(1) 成果

① 道徳の時間の指導法の工夫・改善

- 授業前から机をコの字形にしたり、道徳グッズなどを活用して意欲的に考え発表したりなど、道徳の時間を意識する児童が増えた。
- 道徳ノート「ぐんぐん」を使って振り返りを行うことで、道徳的心情を深めることができた。

② 道徳教育の推進

- 道徳資料コーナーを設け、県の道徳資料、副読本の場面絵を用意し、普段の授業に活用することで、児童一人一人が自分の問題として捉え、考えを深めることができた。
- 学習指導案に学校行事、家庭との連携、事前事後の指導を明記したことにより、「道徳の時間」を要として意図的・計画的に道徳教育を推進することができた。

③ 小中連携、家庭地域との連携

- PTAの「仙波っ子の育て方秘伝書」は、家庭・地域へのよい啓発活動となり、共通理解のもと連携して児童に指導することができた。
- 小中連携を道徳の授業研究と合わせて行うことにより、小・中学校の教師が互いの立場から児童・生徒を捉え、授業を組み立てていく経験ができた。その結果、小・中の情報交換の機会が増え、互いの人間関係が深まってきた。

④ 児童・教師の変容

- 児童の規範意識が高まるとともに、日常の学校生活の場面で児童の規律ある姿が随所に見られるようになってきた。
- 県の道徳資料より「規律ある態度」「してはならないこと」のページを校内に掲示する等校内環境を整備することで、具体的な場面で意識できる児童が増え、規範意識の高まりが見られた。

(2) 課題

① 道徳の時間の指導法の工夫・改善

- 道徳の時間をより充実させていくために、ねらいや資料に応じた児童の心に響く指導方法をさらに研究していく。
- 保護者参加型の授業やゲストティーチャーを招いての授業は、事前打ち合わせの観点を明確にし、ねらいに迫る手立てを工夫していく。
- 掲示物や場面絵などの資料を今後も活用・補充していくことで、研究の成果を継続していく。

② 道徳教育の推進

- 道徳の時間と各教科等の関連をより一層明確にするとともに、豊かな心を育てる体験活動を一層充実させていく。

③ 小中連携、家庭地域との連携

- 学校と家庭・地域の連携を強化していくために、啓発の仕方をさらに工夫していく。

④ 児童・教師の変容

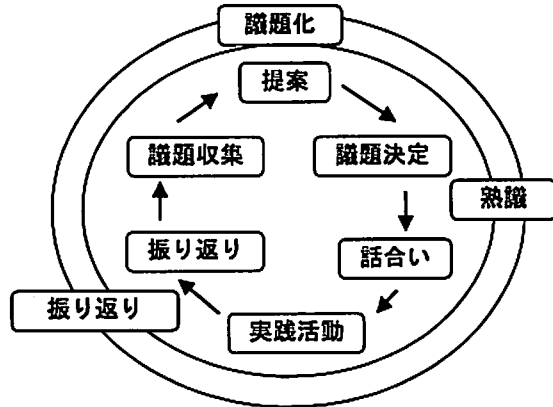
- 保護者へのアンケート結果、要望を教職員で共通理解し、日々の指導に生かせるようにしていく。

「子どもたちの自信を育む特別活動」

川越市立霞ヶ関北小学校

研究のポイント

- 話し合い活動を活発にするために、学級活動の「事前の活動」「本時の活動」「事後の活動」を一つのユニットとして捉える。
- 特に「事前の活動」「事後の活動」に焦点を当て、議題の共有化と振り返りの活動における工夫・改善を行う。



1 研究の概要

(1) 研究のねらい

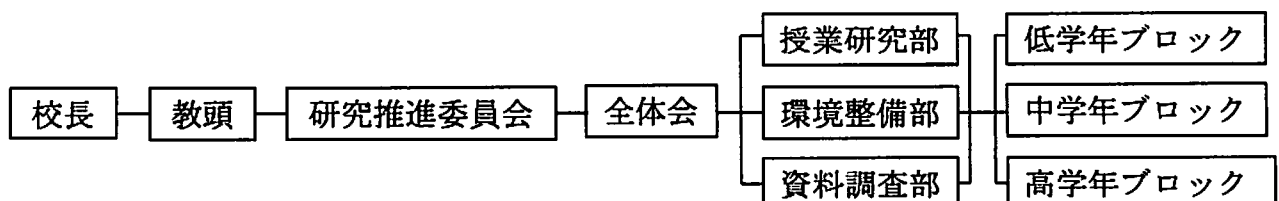
自分や友達によさに気づき、自信を持って物事に取り組み、よりよい学校生活を作り出すことができる児童を育成する。

(2) 研究主題設定理由

本校では、学校教育目標「かしこく（あふれる知性）・きよく（豊かな感性）・たくましく（生きる意欲）」を掲げ、「自分のよさ（知性・感性）を発揮し、心豊かにたくましく生きる子ども」の育成を目指している。また、「子どもがうれしくなる学校づくり」を経営目標として掲げている。特に、「自分のよさを発揮する」という視点から、児童一人ひとりが自分のよさに気づき、自信を持って物事に取り組み、よりよい学校生活を送ることができることを重点に教育活動を展開している。

しかしながら、本校の児童の実態を見ると、自分の意見を発表したり、学級で抱える課題を自ら解決したり、よりよい生活を楽しもうとしたりする意欲や実践力に欠ける面がある。「やればできるはずなのに」「もっと楽しめるはずなのに」という教師の声も聞かれた。「人間関係」や「自己の生き方」について、より一層深めていく必要性を痛感し、学級活動の改善を第一に捉えて研究主題を設定した。

(3) 研究組織



2 研究の内容

(1) 研究仮説と具現化のための手立て

仮説1：個の提案を全体への議題と高め、話し合う意欲を引き出す働きかけをすれば、うれしくなる話合いとなり、子どもの自信が育つであろう。

- (手立て) ①議題に必要性や価値を持たせ、共有するための工夫
②自分の意見や考えに磨きをかけるための工夫

仮説2：活動を振り返り、成果と課題を共有する働きかけをすれば、次の学級活動への意欲付けとなり、自信を持って活動できるであろう。

- (手立て) ①活動を振り返り、成果と課題を共有するための工夫
②評価の工夫

○仮説に対する具体的な手立ての例

| | | 低 学 年 | 中 学 年 | 高 学 年 |
|-------------|---------------|---|---|---|
| 仮 説 1 | (1) 提案の方 | <ul style="list-style-type: none"> ・劇化 ・ペープサート ・紙芝居 | <ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居 ・アンケート結果 ・朝の会・帰りの会 | <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果 ・データ、資料の提示 ・係活動 ・他学年・学級との関わり |
| | (2) 考えに磨き | <ul style="list-style-type: none"> ・見直しタイムの設置 ・教師の指導 | <ul style="list-style-type: none"> ・見直しタイムの設置 ・教師の支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・見直しタイムの設置 ・少人数グループによる話合い ・先輩・家の人との関わり |
| 仮 説 2 | (1) 成果と課題の共有化 | <ul style="list-style-type: none"> ・感想を書いて掲示する ・次にやってみたいことを話し合う ・頑張りを認め合う機会を設ける ・お礼の手紙を書く ・学級活動(2) | <ul style="list-style-type: none"> ・感想や良かったこと・さらに良かったことを書いて掲示する ・感想の交流 ・お礼の手紙を書く ・学級活動(2) | <ul style="list-style-type: none"> ・感想、意見等の交流 ・関わった人たちへのインタビュー ・良かったことや今後取り組みたいこと等を掲示する ・取組が視覚的に確認できる掲示物を作成する |
| | (2) 評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・1ステップごとの評価(それぞれの段階で、喜びや達成感を得ることができたかを評価する) →対話や感想による評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・1サイクルの評価(一連の活動を通して、話し合うことのよさに気付くことができたかを評価する) →振り返りカードによる評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・スパイラルの評価(話合いを積み重ねることによる成長を評価する) →振り返りカードの蓄積による評価 |

(2) 専門部の取組

① 授業研究部

積極的に授業研究会を実施することにより、共通理解を図りながら研究を進める

ことができるようにする。また、各学年で取り組んだ具体的な手立てをまとめ、より効果的な方法を検証する。

- ア 研究仮説の検討
- イ 授業研究会の計画・実施・協議の視点の設定
- ウ 話し合い活動指導系統一覧表検討
- エ 学級ごとの年間指導計画の作成
- オ 指導案形式の検討

② 環境整備部

学級活動コーナーに、学級の様子やこれまでの活動を掲示することで、次の話し合い活動へ意欲を高めることができるようにする。また、表示や掲示等を整備することで、話し合いの流れが明確に見えるようにし、自信を持って話し合いに臨めるようにする。

- ア 学級会グッズの作成
- イ 学級活動コーナーの整備
- ウ 「みんなの学級活動コーナー」掲示板の作成

③ 資料調査部

話し合いの活動における児童の実態や意識、研究仮説に迫る児童の実態や意欲等を調査・考察することにより、指導方法の工夫・改善に生かす。

- ア アンケートの作成・実施
- イ 結果の考察・教師や児童へのフィードバック

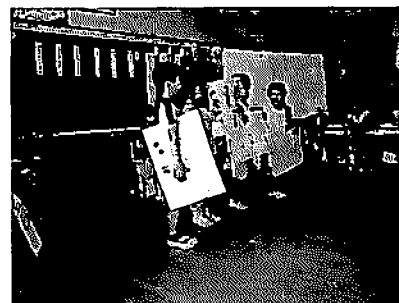
3 実践事例

(1) 議題や提案理由を理解し、話し合いに臨むための工夫

(第1学年 議題「なかよし きらきらかいをしよう」)

- ア 提案理由が全体に意識されるよう、紙芝居形式で絵と文で説明させる。
- イ 会議ノートに書かれた意見に担任がコメントを書き、自信を持って発言できるようにする。

紙芝居形式による提案

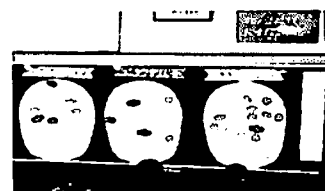


(2) 「振り返り」の工夫

(第2学年 議題「スーパー元気ドッジボール大会をしよう」)

- ア 学級活動(2)の1時間を「振り返り」として行う。
- イ 話し合いから実践までの活動を振り返ることで、自分と学級の成長を実感させる。

振り返りの可視化

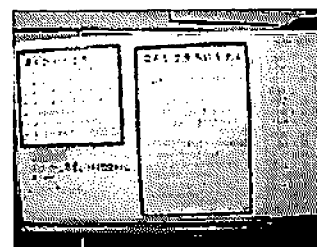


(3) 提案理由を意識した意見が出されるための工夫

(第5学年 議題「林間学校心を一つにプロジェクト スローガンを決めよう」)

- ア 6年生にしたインタビューやクラスの実態に対するアン

アンケートの掲示



ケートを提示する。

イ 提案理由に沿った意見となるよう、グループで話し合う。

(4) よりよい学校生活を作り出そうとする意欲を育む工夫

(第6学年 議題「1年生とウキウキワクワク会を開こう」)

ア 成果と課題を共有する場を設けることで、クラスとしての成長を確認する。

イ 活動の流れに沿った自己評価を行うことで自己の成長を確認する。

4 研究の成果と課題

(1) 成果

- ・子どもたちが議題に対して必要性や価値を感じ、共通理解を持てるような手立てを工夫した。教師は、適切な指導や支援をすることにより、子どもたちの活動に対する意欲を高めることができた。
- ・自分の意見や考えに磨きをかけるような手立てを学年に応じて工夫することにより、自分の意見に自信を持つだけでなく、よい意見やよい理由づけに気付く目が育ってきた。
- ・振り返りの場면을学年や活動内容に応じて設定することにより、子どもたちは自分たちの伸びを具体的に実感することができたり、次の活動への意欲を高めたりすることができた。
- ・一つの課題解決に向かって、学級のみならず取り組んでいく協同体験を繰り返し積み重ねていくことによって、友達との関わりを深め、友達のよさを認めていくことができ、思いやりの心も育ってきている。また、他の学年との関わりを楽しむ場面も多く見られるようになってきた。
- ・自分たちで話し合っ解決し、友達と協力して活動する喜びを味わうことにより、次の活動をよりよくしようという意欲が高まり、活動に対する意識は、学年や学校（児童会）の活動へも広がってきている。

(2) 課題

- ・「課題意識」を持って問題を解決したり、創意工夫のある協同体験をより一層展開したりすることで、学校教育活動全般に望ましい効果を上げ、学校課題の解決にせまるようにする。
- ・子どもたちが自ら課題を見つけ、さらに自信を持って活動していこうとする資質や能力を育てていくために、特別活動はもちろんのこと、各教科、道徳、総合的な学習の時間の指導にわたって相互の連携を図るようにする。
- ・子どもたち一人ひとりに存在感や自己実現の喜びを実感できるような支援の在り方を工夫し、一人ひとりを大切にしたい学校づくりを目指すようにする。

研究主題

「一人一人が自ら考え、わかる喜びを味わえる児童の育成」 —問題解決学習を通し、互いに学び合う算数科の実践—

学校名 川越市立芳野小学校

研究のポイント

- 1 問題解決学習を通じた指導を展開し、確かな学力の定着を図るとともに自分の考えを伝え合う活動（学び合いの場）を通して、コミュニケーション能力の向上を図る。
- 2 練り上げ指導を中心とした教師の指導力の向上を図る。
- 3 新学習指導要領に対応した指導を効率的・効果的に進められるように、教材・教具等の環境整備を進める。

1 研究の概要

(1) 研究のねらい

算数科の授業実践を通して、児童にわかる喜びを味わわせるための指導方法の工夫・改善を図る。

(2) 研究主題設定理由

本校は、平成20年度から2年間の算数科でわかる授業づくりをめざし指導法の工夫改善の研究を進めた。その成果として、問題解決学習の学習過程の定着により基礎・基本の定着が図れてきた。しかし、自分の考えを相手に伝えることが苦手な児童がどの学年にも見られた。

児童の実態から算数科を通して、以下のようにめざす児童像を設定した。

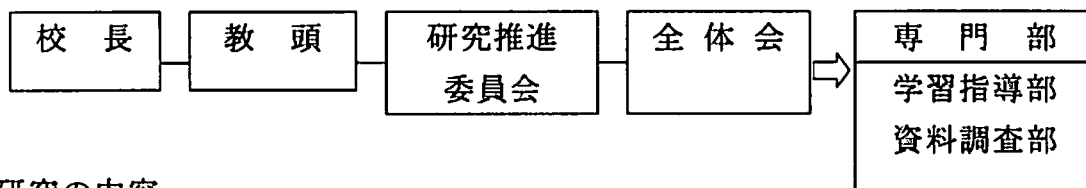
- ①低学年 自分の考えを発表することができる子
友だちの考えを聞くことができる子
- ②中学年 自分の考えを順序よく説明できる子
友だちに質問したり、よいところを見つけたりできる子
- ③高学年 自分の考えを筋道を立てて説明できる子
自分と友だちの考えを比較したり、考えを取り入れたりできる子

仮説Ⅰ 一人一人の実態を把握し、問題解決学習を通して、基礎・基本の確実な定着を図れば、自ら考える力を身につけることができるであろう。

仮説Ⅱ 互いに学び合う場（伝え合いと練り上げ）を工夫すれば、児童がわかる喜びを味わうことができるであろう。

自力解決できるための手立てや友だちと考えを互いに伝え合う場の設定などの指導方法を工夫すれば、児童にわかる喜びを味わわせることができると考え、本主題を設定した。

(3) 研究組織



2 研究の内容

(1) 研究の主な手立て

- ①各調査（入間地区学力調査・標準学力検査等）やアンケートによる実態把握
- ②既習事項を活用した授業展開
- ③自力解決の時間の確保
- ④座席表を活用した実態把握（前時までの達成状況を座席表へ記入し、本時の指導に生かす）
- ⑤話し合いの仕方の指導、学び合いの場の設定
- ⑥練り上げの指導過程の充実（練り上げの構想図の作成）
- ⑦学習環境の整備（算数コーナー、学習室・階段の掲示物の工夫など）

(2) 研究授業

| | | | |
|----|-------------------------|----|---------|
| 4年 | 変わり方をグラフに表そう【折れ線グラフ】 | | (7/4) |
| 2年 | たし算とひき算のひっ算 | TT | (9/22) |
| 5年 | 四角形と三角形の面積 | TT | (10/28) |
| 1年 | ひき算 | TT | (11/18) |
| 3年 | 三角形のなかまを調べよう | TT | (11/24) |
| 5年 | 比べ方を考えよう(1)【単位量あたりの大きさ】 | TT | (12/1) |
| 2年 | 図を使って考えよう【たし算とひき算】 | TT | (2/3) |
| 3年 | □を使った式に表そう | | (2/3) |
| 6年 | 順序よく整理して調べよう【場合の数】 | TT | (2/3) |

(3) 講演会 『数学的な思考力・表現力を育成する授業づくり』 (2/3)

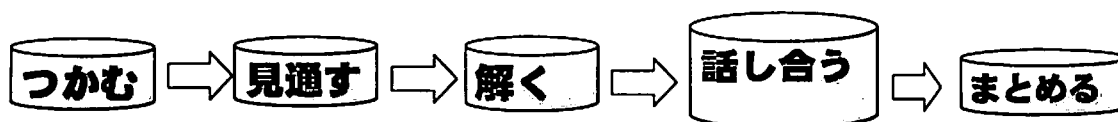
埼玉大学教育学部教授・教育実践総合センター長 金本良通先生

3 実践事例

(1) 学習指導部

① 学習のながれ

算数の学習過程を統一し、学校全体で指導を進める。



- ② 話し合う場面＝練り上げの3つの型を明確にし指導を進める。
- ・よいところ型（それぞれの考えのよさをみつける。）
 - ・はかせ型（早く、かんたんに、正確にできる方法を見つける）
 - ・にたとこ型（それぞれののっているところを見つけて1つにまとめる。）

- ③ 話し合いの具体のめあてをブロックごとに話す、聞くに分けて作成した。

《 話す 》

低：分かるように伝える

中：順序よく、進んで説明する

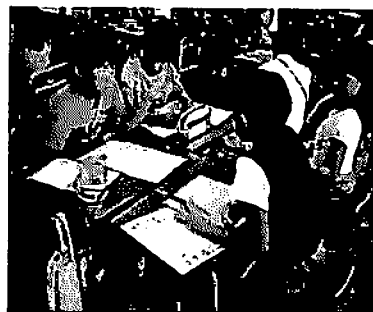
高：筋道を立てて、説明する

《 聞く 》

低：友だちの考えが分かる

中：友だちの考えのよさが分かる

高：比較しながら聞き、認めたり、質問したりして自分の考えに生かせる



中学年：3～4人で



低学年：2～3人で

- ④ 練り上げりの工夫

高学年では、理解の程度にあわせて考えを比較する場面を2段階で行う練り上げを実践した。



- ⑤ ノートの使い方

自分の考えや友だちの考えを児童自らがノート上で振り返ることができるように表記上の約束を全校で統一した。

(2) 資料調査部

- ① 算数への興味・関心に加え、学び合いについて、児童の実態を把握するためにアンケートの実施及び考察を行い、指導に生かした。

7月と11月に学び合いを中心にアンケートの項目を以下のように設定した。

〈 アンケート項目の抜粋＝学び合いの項目 〉

- ア 友だちに自分の考えを伝えることができますか (全学年)
- イ 友だちの考えを聞くことができますか (1, 2年)
- ウ 自分の考えと友だちの考えを比べながら聞くことができますか (3, 4年)
- エ 話し合いの中で、似たところ・よいところ・一番よい方法を見つけられますか (5, 6年)

② 学年別単元別教材教具一覧表

学年ごとに教材の一覧表を作成し、学習室の掲示と年間指導計画へ綴じ込み活用している。

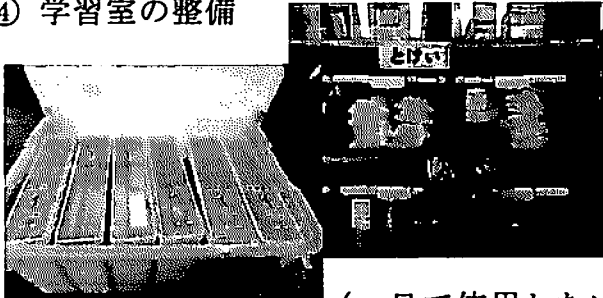
(一目で使用したい教材がわかる)

③ 学年ごと指導内容一覧表

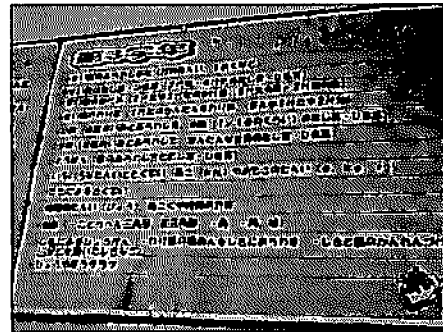
各学年の指導内容を一覧表にして、学習室へ掲示した。

(指導の系統性がわかる)

④ 学習室の整備

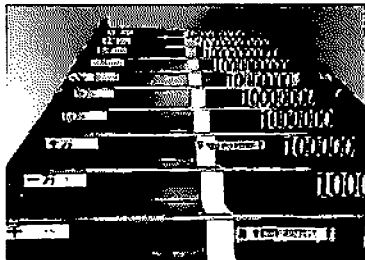


(一目で使用したい教材が探せる)

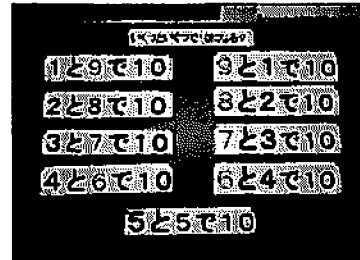


⑤ 校内の学習環境の整備

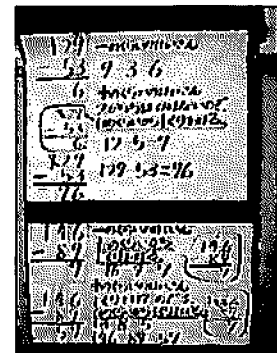
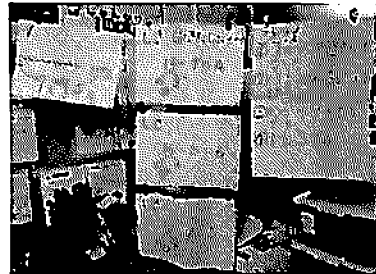
ア 階段を活用した数や単位



イ 掲示版を活用した10の構成



ウ 各教室の算数コーナー



4 研究の成果と課題

(1) 成果

- ・問題解決学習の学習過程が定着し、学び方が身に付いてきている。
- ・自分の考えと友だちの考えの違いをとらえ、それを自分の考えに生かし、考えを発展させられるようになってきた。
- ・話し合いカード（発表時）を活用することにより、発表の苦手な児童も発表できるようになってきた。
- ・レディネステストや振り返りカードを基に個に応じた支援方法を工夫し、授業を実践できた。

(2) 課題

- ・発表力の向上のために、伝え合いの場においてさらに個に応じた指導支援の工夫を進めていく。
- ・言語能力の向上を図るために、他教科においても文章・図・地図・グラフなどに対応し、読んだり、書いたり、説明したりできる機会を工夫する。
- ・学習環境の整備（教材室、廊下など）を定期的・計画的に進める。

研究主題

「個性を伸ばし、創造性を育む学習指導の充実」
～体験的な活動をとおり、科学的な思考力を伸ばす理科指導の工夫～
川越市立川越第一小学校

研究のポイント

- ・児童が主体的に学べるような授業に努め、体験的な学習を重視し、実感を伴った理解が図れるような授業の工夫・改善に取り組む。
- ・科学的な思考力や表現力を育てるために指導法の工夫を図り、自然の不思議さに気づき、進んで自然にはたらきかけ、生活の中で学んだことを生かせる児童の育成に取り組む。

1 研究の概要

(1) 研究のねらい

学校教育目標「四つのだいじ」（いのちをだいじに・人をだいじに・心をだいじに・ものをだいじに）の具現化を目指し、基礎基本の定着を図るとともに、科学的な思考力を伸ばし、理科好きな児童の育成を目指す。

<低学年>

- 自然に進んで関わる子
- 自然に進んで親しもうとする子
- 生活を工夫できる子

<中学年>

- 身近な自然に積極的に関わり、課題を見出す子
- 自然を愛し、生命を大切にしようとする子
- 学習と実生活とのつながりを意識し、生活に生かす子

<高学年>

- 自然に主体的に関わり、課題を解決する子
- 自然を愛し、環境を大切にしようとする子
- 実生活との共通点や関連性を理解し、生活を豊かにする子

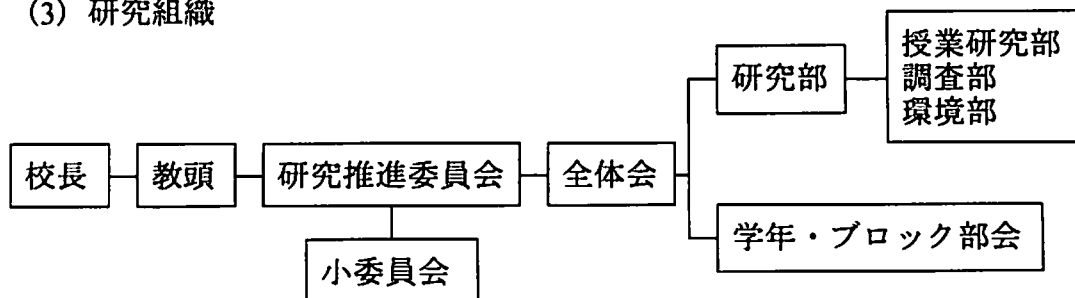
(2) 研究主題設定の理由

近年、小学校の理科教育においては、理科離れや科学的な思考力の低下が叫ばれている。

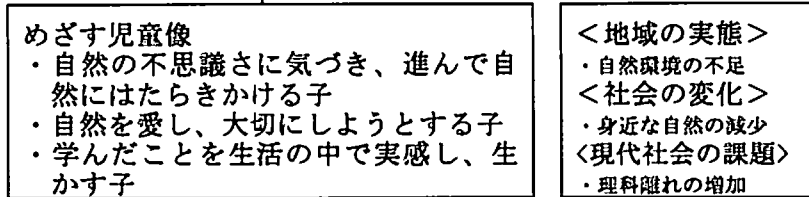
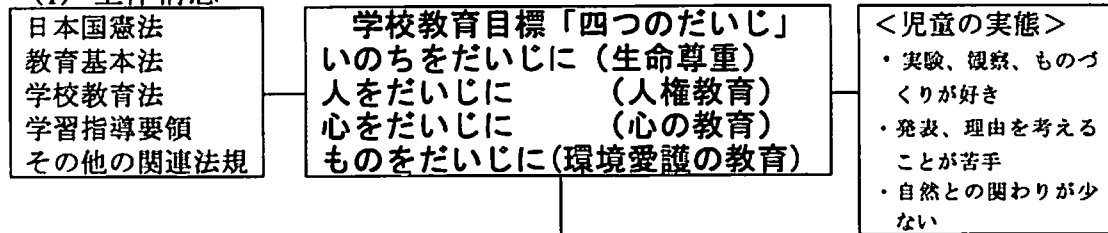
本校においても、標準学力調査の理科の結果が、各学年とも他の教科と比較して、下回っているのが現状である。また、理科好きな児童が多い反面、基礎・基本の定着、科学的な思考力が十分に身につけているとは言えない実態がある。さらに、学区が市街地にあり、日常生活での自然体験や生活体験が豊かに行われていない現状がある。

そこで、主題を「個性を伸ばし、創造性を育む学習指導の充実」とし、副題を～体験的な活動をとおり、科学的な思考力を伸ばす理科指導の工夫～として、児童が主体的に学べるように体験的な学習を重視し、実感を伴った理解を促し、科学的な思考力・表現力を伸ばす指導法の工夫・改善を図ることとした。

(3) 研究組織



2 研究の内容
(1) 全体構想



| 低 学 年 | 中 学 年 | 高 学 年 |
|---|---|---|
| ・自然に進んで関わる子 ・自然に親しもうとする子 ・生活を工夫できる子 | ・身近な自然に積極的に関わり、課題を見出す子 ・自然を愛し、生命を大切にしようとする子 ・学習と実生活とのつながりを意識し、生活に生かす子 | ・自然に主体的に関わり、課題を解決する子 ・自然を愛し、環境を大切にしようとする子 ・実生活との共通点や関連性を理解し、生活を豊かにする子 |

研究主題
 「個性を伸ばし、創造性を育む学習指導の充実」
 ~体験的な活動をとおり、科学的な思考力を伸ばす理科指導の工夫~

研究の仮説

[仮説1] 五感を豊かに働かせる観察・実験や具体的な活動を多く取り入れ、問題解決的な学習活動を展開すれば、新しい発見や出会いに感動し、自然の事象に主体的に働きかける児童が育成できるであろう。


[仮説2] 児童の実態を把握し、一人一人が自然と直接関わる学習活動を展開すれば、自然に親しみ、自然を愛し、生命や環境を大切にしようとする心豊かな児童が育成できるであろう。

[仮説3] 理科の学習と、実生活とを結びつけた授業を展開し、表現活動や意見交換をする場を工夫すれば、自然に対する見方や科学的な思考力を深め、自然の性質や規則性を生活の中で実感し、生かそうとする児童が育成できるであろう。

| | | |
|--|---|--|
| 研究の視点 | | |
| 科学的な思考力を伸ばす | | |
| 学習環境づくり | 授業づくり | 実態の把握、分析 |
| ・環境整備 (理科室、校内) ・資料作成 (校庭の樹木) ・教材開発 ・「理科コーナー」の設置 | ・指導法の工夫・改善 ・授業分析 ・年間指導計画の見直し ・評価計画の見直し | ・児童の意識調査、分析 ・教師の意識調査、分析 ・学力調査の結果分析 |

3 実践事例

(1) 第4学年研究授業展開例

| 学習活動 | 主な教師の発問(T) 予想される児童の反応(・) | 留意点(○)教師の支援(◆) 評価の観点(☆) | 時間 |
|---|---|---|-----|
| 1 前時を ふり返る。 | T 沸騰した水から出てくる泡の正体を予想 しました。予想したことを確認しましょう。 | ○水が沸騰した時に出てくる泡の 正体については、前時に予想さ せておく。また、実験方法につ いても前時に計画させておく。 | 3' |
| 2 本時の 問題を知る。 | <p>(予想)</p> <p>空気だと思う (理由)・目に見えないから。 ・水より軽いから。 ・ふわふわしているから。 ・水をストローでぶくぶくすると 泡が出るから</p> <p>水だと思う (理由)・湯気は水だから。 ・水の体積が減ったから。</p> | | 1' |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <h2 style="margin: 0;">ふっとうした水から出る あわの正体をさぐる</h2> </div> | | | |
| 3 実験 方法を確 認する。 | T 実験方法の確認をしましょう。 | ○必要と思われる実験用具をグル ープごとに配置しておく。 ○それぞれの実験のポイントや安 全上の留意点について確認する。 ○突沸を防ぐために沸騰石を入れ させる。 ○水の量にも着目させるため、ビ ーカーに印をつけておく。 | 1' |
| 4 実験計 画に沿っ て実験を する。 | T 泡を袋に集める実験をしてみましょう。 | ○ビーカーに泡が集まったら火を 消させる。 | 10' |
| |  <p>・袋がふくらんだ。 ・火を消したら、しぼんだよ。 ・空気は、これほどしぼまない。 ・袋の内側に水滴がついている。 ・水が減っている。</p> | ◆様々な視点で観察させるために ポイントを助言する。 | |
| 5 実験結 果をノートに記入 する。 | T 結果をノートに記入しましょう。 | ○図や言葉を用いてまとめさせる。 ◆水が袋にたまったことやビーカー の水が減っていることから、 泡の正体は水が変化したもので あることに気づけるよう支援す る。 | 5' |
| 6 実験結 果からわ | T 実験結果から、泡の正体は何なのかかわか りましたか？自分なりに考えてノートに記 | 【思考・表現】 ☆袋に集めた泡が水の姿になって いることから、泡は水が目に見 | |

| | | | |
|----------------------------|---|--|------------|
| <p>かったことを考察する。</p> | <p>入してみましょう。</p> | <p>えない姿に変わった物であると 考え、自分の考えを表現してい る。(ノートへの記述)</p> | <p>10'</p> |
| <p>7 考察したことを伝え合う。</p> | <p>T 考察したことを発表しましょう。</p> | | <p>10'</p> |
| <p>8 本時のまとめを行う。</p> | <p>T 実験の結果から、あわの正体は、空気ではなく水だということがわかりました。</p> | <p>○理解を促すため、図や絵を用いて説明する。</p> | <p>4'</p> |
| <p>あわの正体は、水である。</p> | | | |
| | <p>T では、なぜ水のすがたが見えなくなったのかを説明します。 水は、100℃近くになると水蒸気という目に見えないものにすがたを変え、冷やすとまた目に見える水にもどります。</p> <p>T 今日学習したことを自分の言葉でノートにまとめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水は、沸騰すると目に見えないあわにすがたを変える。 ・あわを水蒸気という。 ・水蒸気は、冷やされるとまた水になって現れる。 <p>T 水は沸騰すると水蒸気というあわにすがたを変えるということがわかりました。</p> | <p>【知識・理解】 ☆水は、沸騰すると水蒸気という目に見えないすがたになることを理解している。(ノートへの記述)</p> | <p>1'</p> |
| <p>9 次時の予告を聞く。</p> | <p>T 次は、水を冷やすとどうなるかについて調べます。</p> | | |

4 研究の成果と課題

(1) 成 果

- 環境整備により、休み時間などにも児童が科学的な体験をすることができた。
- 単元の導入時の工夫によって、児童に「なぜだろう。」という疑問を持たせることで、問題意識を持たせ、主体的な活動が促された。
- 児童の意識調査や標準学力調査の分析結果を生かすことで、児童の学習に対する意欲が高まり、実験や観察に意欲的に取り組むようになった。
- 事前の教材研究を十分に行うことで、実験・観察や、考察の時間を十分に確保することができ、実感を伴った理解をさせるとともに、児童の科学的な思考力や、表現力を伸ばすことができた。
- 共通理解のもとでのノート指導で、児童に表現力の向上がみられた。
- 研修をとおして、教師も児童も徐々に理科好きになってきた。

(2) 課 題

- 地域の人材を活用し、発展的な授業に取り組むことで、学んだことと生活との共通性や関連性を図りたい。
- 教材・教具の開発をさらに進め、環境の整備を充実させる。
- 授業での考察の場面で、互いに意見を交換したり、共有したりする場の研究をさらに深めていく。

「お互いを尊重し合い、共に高め合うことができる児童の育成」

川越市立寺尾小学校

研究のポイント

- 1 人権教育の視点に立ち、全教育活動を見直す。
- 2 コミュニケーション能力を高め、人の考えを認め自分の気持ちを伝えられる児童の育成を目指す。
- 3 自尊感情を高め、お互いを認め合える児童の育成を目指す。
- 4 家庭や地域と連携し、地域ぐるみで人権意識を高める。

1 研究の概要

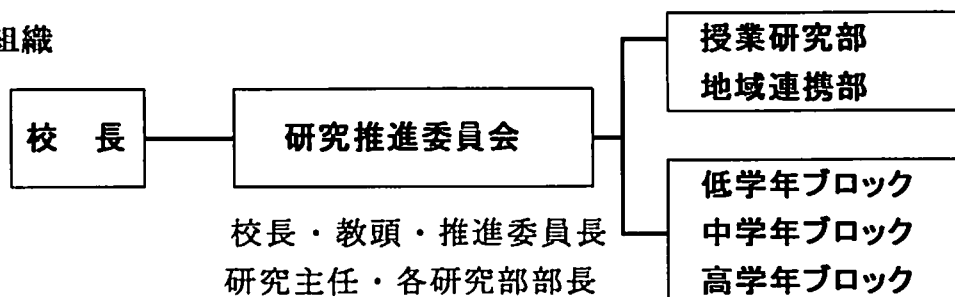
(1) 研究のねらい

- ①発表や聞き方の形式を定め、話し合いを取り入れた伝え合う授業の展開を工夫する。
- ②一人一人を認め合い、生き生きと活動する取組を工夫する。
- ③体験活動や人との交流の中で、自信を持って活動することができる取組を工夫する。

(2) 研究主題設定理由

22年度までの国語科の研究で、「話し合いの力」が徐々に身につけており、独りよがりではなく、相手の意見を受けて発言ができるようになってきた。しかし、生活場面では、友だちの気持ちを考えずに行動したり、人の良いところより、足りない部分にばかりに目がいてしまい、トラブルになることも少なくない。児童に自他の人権を尊重し、他者の痛みを共有できる共生の心を醸成するとともに、自分で判断し行動できる態度を育成することが課題となった。そこで、本校では、研究主題を「お互いを尊重し合い、共に高め合うことができる児童の育成」とし、人権教育を推進することとした。

(3) 研究組織



2 研究の内容

(1) 全体構想図

児童の実態

- ・明るく素直であり、意欲的な児童が多いが、自尊感情が十分ではない。
- ・他者の立場や思いを理解して行動することが苦手である。

学校教育目標

自ら進んで

学ぶ子

仲よくする子

きたえる子

学習指導要領

- ・人権教育及び人権啓発の推進に関する法律
- ・人権教育・啓発に関する基本計画
- ・人権教育の指導方法等の在り方についての第3次とりまとめ

研究主題

「お互いを尊重し合い、共に高め合うことができる児童の育成」

こんな児童になって欲しいな

①相手の考えや思いを聞き、自分の考えや思いを伝えられる子

【低学年】

話を聞き、自分の考えを言える子

【中学年】

相手の考えをよく聞き、自分の考えを言える子

【高学年】

他者の考えや思いを受けとめ、よりよい考えを出し合える子

②自他の考えのよさや違いを認めることができる子

【低学年】

自分と友だちのよさを見つけられる子

【中学年】

お互いのよさや違いを認められる子

【高学年】

自他のよさに気づくとともに、他者の様々な価値観を受けとめられる子

③自他の立場を大切にして行動できる子

【低学年】

自分のよいところに気づき、仲良く活動できる子

【中学年】

お互いの立場を考え、協力できる子

【高学年】

お互いのよさを発揮し、主体的に課題解決に取り組める子

【仮説1】

伝え合う授業

発表や聞き方の形式を定め、話し合いを取り入れた伝え合う授業の展開を工夫すれば、自分の考えや思いを伝え深めることができるであろう。

【仮説2】

認め合う活動

一人一人を認め合い、生き生きと活動する取組を工夫すれば、自他の考えのよさや違いを認めることができるであろう。

【仮説3】

ふれあう体験

体験活動や人との交流の中で、自信を持って活動することができる取組をすれば、自他の立場を大切にして行動できるであろう。

3 実践事例 第4学年〇組 学級活動指導案

(1) 議題 もっともとなかよし「ワクワクスマイルタイム」を開こう

(2) 研究主題との関わり 一目指す児童像に対する仮説と手立て

①「自他の考えのよさや違いを認める子」

【仮説】一人一人を認め合い、生き生きと活動する授業や活動をすれば、自他の考えのよさや違いを認めることができるであろう。

【手立て】

- ・学級会の進め方、意見の出し方、意見の聞き方（自分の意見との比較）、多様な集団決定の仕方を積み重ねていく。

②「相手の思いや考えをよく聞き、自分の思いや考えを伝える子」を目指す手立て

【仮説】発表や聞き方の形式を定め、話し合いを取り入れ伝え合う授業の展開を工夫すれば、自分の思いや考えを伝え深めることができるであろう。

【手立て】

- ・意見の発表が活発になるように、事前に学級活動ノートに柱に対する意見・理由を書かせて学級会に臨むという経験を積んでいく。
- ・事前と事後に学級会ノートを集め、担任からのコメント等を書き、励みとさせる。
- ・友だちの意見と自分の意見とを比較しながら聞き、立場の違いやその意見の良さにも気づけるよう支援する。

③「自他の立場を大切にしてい行動できる子」を目指す手立て

【仮説】体験活動や人との交流の中で自信をもって活動することができる取り組みをすれば、自他の立場を大切にしてい行動できるであろう。

【手立て】

- ・話し合い活動で集団決定したことをみんなで協力して活動する。
- ・活動をふり返り、良かったことを認める時間をもつことにより、お互いを認めることができるようにする。

(3) 本時の流れ

| 第11回 学級会 活動計画 | | | |
|---------------|--|-------|--------------|
| 議題 | もっともとなかよし「ワクワクスマイルタイム」を開こう | | |
| 計画委員会 役割 | 司会 | 〇〇 〇〇 | ノート記録 〇〇 〇〇 |
| | 副司会 | 〇〇 〇〇 | 〇〇 〇〇 |
| | 黒板記録 | 〇〇 〇〇 | 〇〇 〇〇 |
| 提案者 | 〇〇 〇〇 | | |
| 提案理由 | 4年〇組はなかの良いクラスだと思うけれど、私はクラスの中にもっともなかなかりたい人がいます。 ～～中略～～ そこでお話会（ワクワクスマイルタイム）をすればいろいろな人と話をすることができ、一人一人よいところなどがあらためて分かり、もっともってクラスがなかなよくなっていけるきっかけになり、より楽しく、協力できるようになると思ったので提案します。 | | |
| めあて | もっともって仲よくなれるお話会の工夫を考えて決めよう。 | | |
| 話し合いの順序 | 気をつけること | | 資料等 |
| 1 はじめの言葉 | ・大きな声ではっきり言う。 | | 学級会ノート MD |
| 2 クラスの歌 | ・大きな声で元気に歌ってもらえるように声にかける。 | | |

| | | | |
|----|--|--|---|
| 3 | 計画委員会紹介 | ・司会から順番に自分の名前とめあてをはっきり言う。 | |
| 4 | 議題の確かめ | ・クラス全員が分かるように大きな声で言い、確認する。 | |
| 5 | 決まっていること の確認 | | |
| 6 | 提案者の紹介と 提案理由の確認 | ・作った掲示物を使い、分かりやすく確認してもらう。 | |
| 7 | めあての確かめ | ・めあてに沿って話し合いができるように確認する。 | 掲示物 |
| 8 | 話し合い | ・賛成意見を必ず理由をつけていってもらう。 | |
| | ①ワクワクスマイル タイムをもちあ げる工夫を決 めよう。 | ・反対意見は理由とどうすればよくなるか、または、自分 はどれに賛成なのかも言ってもらう。 ・賛成意見が多いものから決定していく。(反対意見が あるのに賛成が多く決定していく場合は、反対意見を出 した人に確認をとる。) | 学級会ノート (話し合いの進め 方・司会アドバ イスクード) |
| | ②役割分担をしよ う。 | ・意見が出なくなってしまうときには、まわりの人と 相談してもらう時間とる。 ・時間内に決められるように「青・黄・赤カード」を出 して時間をいしきしてもらう。 | |
| 9 | 決まったこと の発表 | ・ノート記録に大きな声ではっきりと言ってもらう。 | |
| 10 | 感想の記録 | ・話し合いの感想や良かったことを書いてもらう。 | 学級会ノート |
| 11 | 先生の話 | | |
| 12 | おわりの言葉 | | |

4 研究の成果と課題

(1) 成果

- ・話し合い活動を取り入れた授業を、発達段階に応じて展開することにより、自分の思いを伝えることができるようになってきている。
(伝え合う力がついてきている)
- ・学校全体で、一人一人のよさを見つけ、認め合う活動を系統的・意図的に取り入れることができている。
- ・教育活動全体を人権教育の視点に立って見直すことができ、教職員全体の意識が高まった。
- ・アンケートや行事を通して、保護者や地域の意識を高めることができた。

(2) 課題

- ・認め合い、ふれあう体験活動をさらに系統的に行う必要がある。
- ・健全な自己肯定感を育成するために、身に付けさせたい力を明確にする必要がある。
- ・仮説に対する「手立て」の整理、開発がさらに必要である。
- ・掲示物等の環境整備を進める必要がある。
- ・評価方法の開発が必要である。
- ・年間指導計画の中にさらにきめ細かく「人権教育」を位置付ける必要がある。

研究主題

「学ぶ喜び、笑顔輝く高北っ子の育成」

—特別支援教育の視点を生かし、国語の授業から広がるコミュニケーション能力の育成—
川越市立高階北小学校

— 研究のポイント —

- 特別支援教育の視点を生かし、規律があり互いのよさを認め合える温かい学級づくり、授業づくりを実現することにより、生き生きと活動する児童の育成を図るようにする。
- 言語環境を整え、楽しく「わかる・できる」授業づくりを工夫し、他者との学びの共有を図ることにより、コミュニケーションの能力を高めることができるようにする。

1 研究の概要

(1) 研究のねらい

- ① 特別支援教育の視点を生かし、規律があり互いのよさを認め合える温かい学級作り、授業づくりを実現することにより、生き生きと活動する児童を育成する。
- ② 言語環境を整え、楽しく「わかる・できる」授業づくりを工夫し、他者との学びの共有を図ることにより、コミュニケーションの能力を高めることができるようにする。

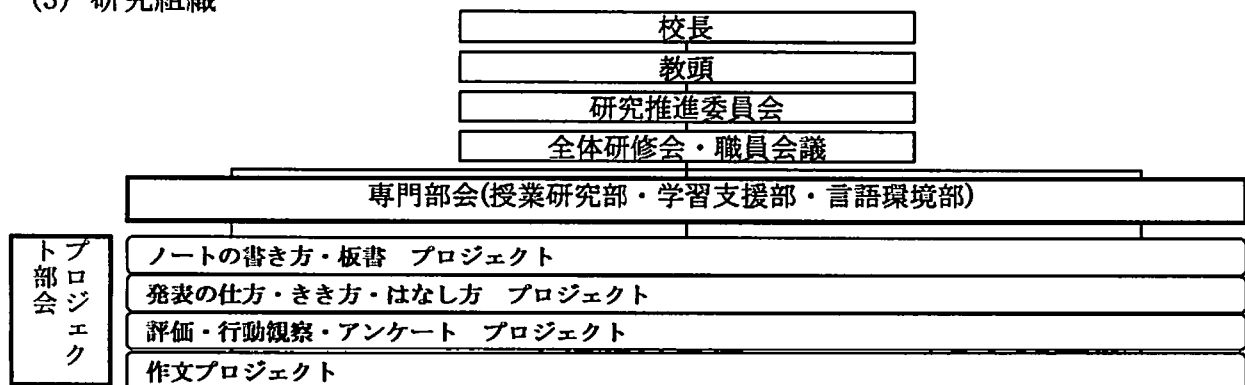
(2) 研究主題・副題設定の理由

本校児童の基礎学力は、県学習状況調査、3つの達成目標確認テスト等の結果から、県や市と同程度であると考えられる。しかし、児童一人一人の生育歴や生活経験は様々で、他者とのコミュニケーションを苦手とする児童も数多く在籍する。

全ての児童が、将来において「生きる力」を発揮して、他者との望ましい関わりの中で、心豊かで充実した人生を送ることができるようになるためには、子どもたち一人一人のコミュニケーション能力を高めることが重要である（笑顔輝く高北っ子の育成）。

子どもたち一人一人のコミュニケーション能力を高め、学校教育目標の「たかまる学び」「かんじる心」の具現化を図るためには、自分がかつたという実感と、相手を認め、相手から認められる相互承認の経験が不可欠である。そして、言語環境を整え、指導方法の工夫改善に取り組み、障害の有無や学力差、興味関心の差などの違いを越え、どの子も「分かる・できる」と実感できる授業を実践することが大切だと考えた（学ぶ喜び）。また、一人の子によいことは、すべての子によいという考えから特別支援教育の視点を生かした研究とした。

(3) 研究組織



研究の内容

社会の要請 「生きる力」
学習指導要領
教育に関する3つの達成目標

**たかまる学び
かんじる心
きたえる体**

・めあてをもって、進んで学習できる子
・進んで課題を発見し、解決できる子
◎よく聴き、よく考え、自分の意見がしっかり言える子

・礼儀正しく、きまりを守る子
◎思いやり、感謝の心もち、温かい心で支え合うことができる子

研究主題

学ぶ喜び、笑顔輝く高北っ子の育成(国語)

特別支援教育の視点を生かし、国語の授業から広がるコミュニケーション能力の育成

学ぶ喜び

子どもたち一人一人のコミュニケーション能力を高め、学校教育目標の「たかまる学び」「かんじる心」の具現化を図るために、特別支援教育の視点を生かし、言語環境を整え、指導方法の工夫改善に取り組み、どの子も「わかる・できる」と実感できる授業を実践する。

仮説1

特別支援教育の視点を生かし、規律があり互いのよさを認め合える温かい学級づくり、授業づくりを実現することにより、生き生きと活動する児童の育成が図られるだろう。

研究主題・副題設定の理由

笑顔輝く高北っ子の育成

本校児童の基礎学力は、県学習状況調査、3つの達成目標確認テスト等の結果から、県や市と同程度あると考えられる。しかし、児童一人一人の成育歴や生活経験は様々で、他者とのコミュニケーションを苦手とする児童も数多く在籍する。

全ての児童が、将来において「生きる力」を発揮して、他者との望ましい関わりの中で、心豊かで充実した人生を送ることができるように、子どもたち一人一人のコミュニケーション能力を高めることが重要である。

仮説2

言語環境を整え、楽しく「わかる・できる」授業づくりを工夫し、他者との学びの共有を図れば、コミュニケーションの能力を高めることができるだろう。

専門部会

言語活動部

- ・言語活動の掲示物
- ・授業に関わる(掲示)教材づくり
- ・文ちゃん人形づくり
- ・各学年の発達段階を明示した掲示
- ・同じ作者の作品調べ
- ・資料収集作成
写真 昔のもの
- ・図書30選 40選
- ・音読
- ・学校図書館との連携・有効利用

授業研究部

- ・学習形態
- ・言語能力を高める指導法の工夫
- 提案授業と指導案作成
- ・個に応じた指導の工夫
- ・特別支援学級、通常学級間わずらわぬ教育実践の工夫
- ・言語事項の系統性
- ・音読カード
- ・口の体操
- ・漢字の指導(1人1字)
- ・視覚に訴える教材(教室掲示。コンピュータ)

学習支援部

- ・つまずいた子への支援
- ・児童理解のための教材作成
- ・社会性を育てるために有効な方法
- ・学習マナー・学習ルール
- ・学習習慣の確立のための工夫
- ・小道具・関連グッズ作成収集
- ・漢字のアイディア
- ・学習支援アイディア集 vol.2 (仮称)
- ・時計(見通しをもって安心して学習)

プロジェクト

発表の仕方
きき方
はなし方

ノートの書き方・板書

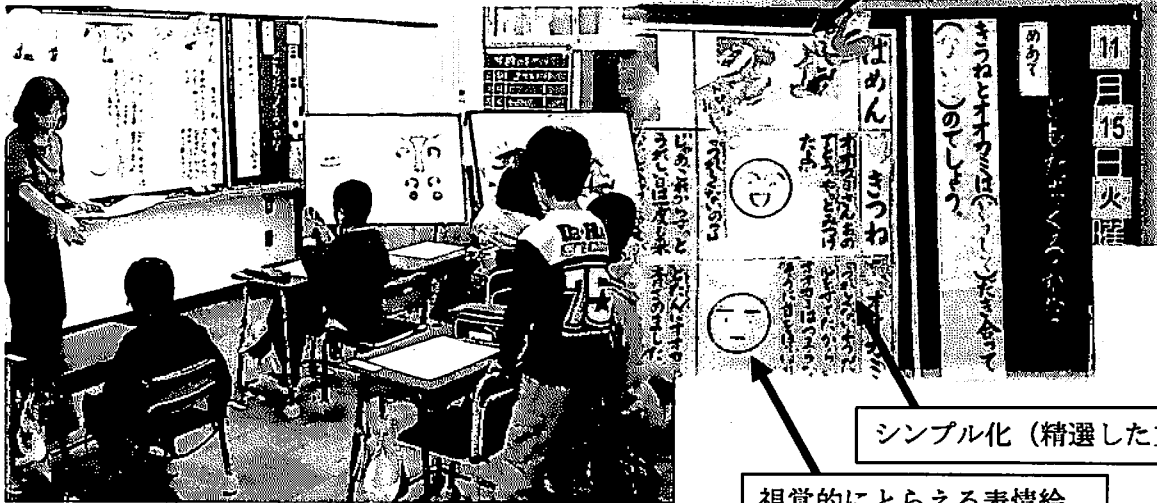
評価 行動観察 アンケート
(コミュニケーション・授業について)

作文
・基礎基本の改訂…3月
・論理的作文のワークシート
原稿用紙の使い方

3 実践事例

(1) 授業実践事例 (特別支援教育学級) ともだちくるかな

視覚化 (場面絵)

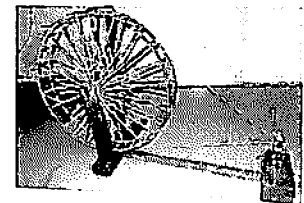


シンプル化 (精選した文)

視覚的にとらえる表情絵

(2) 授業実践事例 (第1学年) たぬきの糸車

視覚化 (残り時間がわかる支援時計)



シンプル化 (構造化した板書)



動作化 (ペア学習で確認)

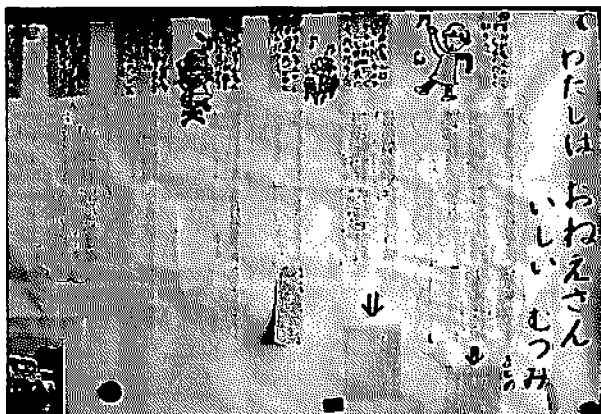


動作化 (おかまでご飯を炊くおかみさんになって)

4 研究の成果と課題

(1) 成果

- ① 学習計画表や授業の流れの提示・活用によって、児童が見通しをもって意欲的に課題に取り組めるようになった。



単元一覧表

- ② 計画的な板書計画を作り実践することにより、授業が整然としメリハリのあるものとなった。
- ・めあてとまとめの対応
 - ・黒板三分割磁石の活用
 - ・ノートにも生きる板書
 - ・デジタル教科書の有効活用
- ③ 気持ちや考えの伝え方を具体化することで安心して発表したり、ペアの友達やグループの友達に話したりできるようになった。
- ・ペア学習やグループ学習など学習形態の工夫
 - ・一人の考えのよさを他の児童へ伝える指導の工夫
- ④ 各部会やプロジェクトチームなどの研究組織を工夫することで全員が参加できる学校研究が実現した。

(2) 課題

- ① 構造化された授業展開をするためには、教師が教材をより深く読み込むことが必須であり、その難しさを実感した一年であった。今後さらに教材研究を深め、児童がより楽しく「わかる・できる」授業づくりをしていきたい。
- ② あいさつをはじめ応答力がまだ身につけていない児童も見受けられるので、学校のみならず地域や家庭との連携を図りながら、コミュニケーション能力の育成を目指していく必要がある。